樂翁公詠歌

か 57
13 30
ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

か
57

樂翁公詠歌

清水濱臣評

江山堂藏

128

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』 請求記号 寄別13-30

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30
ガラス使用

雲もゝ　花もいろいろなりけり

下句なを可

きりぎりす　なのみや　公雲も

一そのもゝ

秋の夕の　竹着

竹の詞　そえ　新錦　ふかきの

秋をみる　鹿　まそすゝき　池水

初句を　なを

おもふ　れと　書格

かゝやく　例

霧の葉し　秋　ふかき　ふる

下句めて　美

時雨　よく　ても　ふる

ふる　二の句

ゆふ　此の葉　秋風

みる　ても

雲も　ふる　秋の

又めて　二首

おも

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30
ガラス使用

立春

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

朝霞

谷鶯
殘雪

有明の

暮曙

老らの深きみ山のあらし吹て思ひそそ春なお
かくれかのなるうし木の松ふ

帰雁

春雨

そそ行ら雲の辞ま

岸柳

うき舟のふるひ

待花

初花

きもるもいうそを高ふて和も

見花

花盛

落花

歌

池藤

暮春

更衣

卯花

待郭公

閑郭公

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30

ガラス使用

雲きえむらの山を吹落てさ夕の涼
蝉
秋ちかき声を蝉の群よりや山そつゝ
萩
萬人毎にちるのみかはあまのとやみそひ
妹
一葉ちるこのもかもと木のもとのり
七夕
侵

あにばかり歎つまるゝ秋の夜の
萩風
歎く木といひ表こそ
夏のあの秋のよそほひいそしき
萩露
萩の戸
けさの朝萩の花の
女郎花
あはれなるものへと
夕虫
そよろをよりて玉鉾

夜雁

春やふかき月や出ぬる小雪庵の
初雁

つもり来のみちもなし初雁
秋夕

そもすれば思ふともなく我身をも
山月

出るものうきまでよそへて
野月

搗衣　いそぶこと長き事をもいふ

こぬつをきつゝ淀やみさくらんま

暁霧　このまゝそ（を妻）あるうちもはるゝね

柿のこる木もうつくしくほのぐらくて霧よりおそくあくる庭

岡紅葉　もみぢ　西のやうに

夕々に染みわたるらし高雄山のもみぢをてらす夕日は

庭紅葉　中なしうつす

もる人もなくて霧こめし庭の

初夏雨夜　初句より夜のうちの秋をこゝろにかけてよめり

九月尽　なごりをしむこゝろをよめり

九十日の春のよすがらの秋のしも

霧　霧をしいてもしのべとて秋のこゝろをなめまつを秋のこゝろ

秋雨　一つ二つ降かゝるより

淀川やそこにかもめの立つ居つゝ

時雨　雪候よりはやし

木にさきて雪ともまがふ梅の花

落葉　木〻おちしきりて雨のよう

浅茅生やつゆの木〻も詳しくて、庭のおちば風のふく

朝霜　木〻木うすく霜ゐたり

志ゞの入り餌ひろふ鳥の跡つけて黄菜の色

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

擣衣

こぬかをもつゝ淀やみさまん寺

暁霧

このまゝにそゝ(ぬ)をかさねてや

柿のこすゑをかしらふらん

岡紅葉

夕ゝ衣みねを隔くる小雨より

庭の落葉

そゝれをぬらすそゝ霜の

霜

ふりにけりなゝ秋のうつりゆく

初冬

冬ごもりこゝろにこめてこゝろなき

庭の松ばを

時雨

おとまばらなる木ゝのはを

落葉

ふきまよふ木ゝのはをけふこゝろ

無き風の

朝霜

ふりまさる木ゝの葉詳しくて

志ゝの人や餌ひろふ鳥の跡

寿の字と洲一年の
長き事をおもひ合せ洛陽の洛と古人
をまねあるべし
(画のやうに書)

秋の夜

夕ゝ衣みねを隔くる小雨より深き

庭の落葉

そゝれをぬらすそゝ霜の

初冬

冬ごもりこゝろにこめてこゝろなき

庭の松ばを

時雨

おとまばらなる木ゝのはを

落葉

ふきまよふ木ゝのはをけふこゝろ

無き風の

朝霜

ふりまさる木ゝの葉詳しくて

志ゝの人や餌ひろふ鳥の跡

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

寒草

○碧海遠の今庭ぞそうと事なき
十鳥
神さびし高松つゆ
水雪
○行つるこの方さすらひて雪
氷初結
○あさて出る初つ
冬月
○ふるさと
○雪のこと
○ふれぬ民の
○ふりも
○ふりみ
○ふる
○ふ
○ふ
○ふ

寒着

寄自恵

寄雪恵

寄山恵

寄月恵

寄雨恵

寄風恵

寄海恵

寄木恵

寄橋恵

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

寄草恋

旅

海路

釋教

祝

水郷

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30

ガラス使用

一笑ふるものよこれや世の常

持衣

これやまろが遠つ祖より遠よりて
着る衣

秋の雪着もこうるもこうるも

水心

いつもいつも二ゐる水ながら三そのいろ
のまにまに新のうつりかはれる
こゝろ世を首文化七年十二月廿日
仍時自筆校畢　吾能書

十月廿日のうちの十一首かから昭和
うちのふたつをけつ
祇へに物ふれなくに
手納いつつみ
玉ぞうれしき　徹書化の手納

か
57

18/12/39

国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30

ガラス使用

か
57

国立国会図書館　　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号　寄別13-30

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『樂翁公詠歌』　請求記号 寄別13-30